

松屋外集 二編

卷三

45
1398
3



門 45
號 1398
卷 3

高田早苗
昭和二十六年
二月



故高王書
松尾持象
之為
之

五ノナ

松屋外傳二編卷之三



目録

ひらの大嶽 カキガ

四所の嶽

つぎるく船の

町のもろく

おしきの杜

追初の森

大嶽

改新大納言の為子の

111

土傳三品

俊成卿

細川の庄を以てはなはたし

和歌所飲

右京北入左殿

細川満元入左通親

正三位大納言子あかり

香馬

墨股河

あづかおのびせま

阿字賀の里

及の橋

あうあま

けあのみま

里田の里

正徹書記

新ふるまおけまの地蔵

菜田の地蔵

里のむま

土岐返信

こころのきりぎりす衣

こゝろの白き衣

鈍ト衣イ

優い安宴を

大笑い

一文二希

一文不通

夢とやぶら

めなはりらるる池

繫ヌナ

橋ハシ

あやぎ

号竹陰

補陀大土

補陀洛伽山觀音

大土

俵ハタ

らくとと初

禪禪

を慚ハ遊ユのノ私シ

新編大和歌
卷之六
終

灯上人

梵灯庵主

不堪

詞人のみぢみたるん

了後

凡の根^ニ成^ルま^ルる^ニま^ルる^ニ

方人

あき衣

あらしは

らばさうら名にまの川

流川

清洲

おののかりはも

しほらみん

稻葉河

坂^キ島山

かきれづ

あきの羽^ハも

新編大和歌

いさよはおのまのあまらるる

松浦佐用候 此礼

おのるる

生向のりみも射

あまらるる

くらや海や

奥のねとほをも稀とある

とほ

あまらる

足串の山梅を稀とある

山梅戸

おのまらるる子とほ

正徹

女のかぶさ

北野松梅院

おのる

三界をあのとほ

くらや海やのあまらる

十界一如

たよりなきこといつるゆゑ

みぢりふ

はぢりあつてもな

犬の餅屋

お十辰轉の功德

雲水の力

高のゆゑ

北野天神

高き

ころとがみ

盛者必衰

鳥糞がごらん

舎者の三離

えづの力

同字提

すぢのちもねがふ

信施

えぢるけうりのおぢ

うつら

正徹在處

頼水子あはむ

詩由

集文

我より一の位もくふふまゝ

竟往貌姑射之山

高山竹林の古人

高山四皓

竹林七賢

鶴の鞍の駒は

衛懿公好鶴

季文子の妻

あしあのみ

欲知過を因見其現在果

現在因

未来果

さうよこころを

若者の如く

いふ事あり

日々をぬ

松の飛極の松

飛梅

櫻

追松

皇太子御

御早御

高天原の

宮

皇太子御

御早御

皇太子御

皇太子御

後花園院

中風

皇太子御

皇太子御

皇太子御

皇太子御

皇太子御

皇太子御

皇太子御

皇太子御

四智讃十尾禁

淳路

上品庫

くろくろくも

かろくはさふぬお

石火光中寄此身

とこやのい

登と霞

昇霞

柏木卿

世あまの油とまふぬぬ

張行

西乃

お十鈴川

懸の切

鞠場の懸

切

かろくまの卯

定格のあめら

依作

本尊

ふゆはぐりあやましく

雲山流法

鶺鴒の池

鬘袒

飛鳥井家

あつとこころぬまの

うつとらん

いふらんそふさふま

知作の守

猿舟

葛袴

あし

長袒雅信卿

雅信

かえり

雅世卿

御書

とらふまゝなり

松屋の集二編卷之三

華頂殿存侍字士平の白紙用稿

叔父指母真卷第廿二

正徹尉三平

ひらの大嶽 オキダケ 三丁 右

近江国滋賀郡比叡山の頂 イタヤキ

田明嶽 タケノ 大嶽之志平

表記四巻加賀国延河焼失の字

関白殿御夢御覽にナルリ

比叡大嶽額部天御身

係ルト寛二打撃佑テ云々長門

本平家物語二の巻、白山神興振上
山上ニおまニ序ノのノのほトどクりかク下
夫のおもてひえのたづけもここえて
西とようしりぬまり次郎首首首の
俊頼

ひえの山のたづけはかれれぬをね
水飲はたられてきさる此款散木集
急上先木抄能思得哉何に致す

法師家集ニ殿法印一

大づけの序吹以て務終て

からのしの月をくまぬ寂蓮

又

あらうと又ちびちき大づけよさ

まは月のくまならぬあけぬ法印の

慈田の拾云集の共巻新勅撰龍四

龍集の新勅撰大づけの序吹以て務終て

二葉時を **道** 拾五頁、其巻

左 大ね

大ねのゆきさうじきうしん

きうきういんしほのしんしん又懸四

大ねの口此いきうくえんきうしん

即し今を初まの存又教大ね言

大ねのきうねんきうの日は

の物もや君のなむふしんしん

左大ねも初まの存又教大ね言

松 **影** **奈** **天**

〇きふくきうの **三** **丁**

拾遺、哀傷 **沙** 弥 痛 誓

世の中をきうしんしんきうしん

きうきうしんしんしんしんしん

卷卅一頁 **患** 心 僧 都 和 哥 八 柱

言 綺 語 也 上 天 不 護 佑 又 患 心

院 三 天 阿 伽 婆 名 水 夕 夕 眺 望 之 夕

了りしをいふは後指遺書に
相換さるるはなりはるまの
のしをいふはしをいふは

東海のおしをいふは

おしをいふはしをいふは
記三種はしをいふは
浦生郡天磯森上云所あり
森也道行知ヲ取迄サレテ此ヨリ

追初ケル也
後附會ニテ賣ハ大磯ノ新ニハ
ヲ於トシテ例ハ大計五小計五
日本紀顯宗紀ニ億計五
ハ大坂ヲ於佐加大計ヲ於麻倍
江浦生郡ノ先言ノ森ニハ下
大江公資ハ相換守ニ頼政ヲ相換ス

是任國下り、袋草子尾已
之ハ相換、大磯、杉、久和歌名
所追考、九尚考、ハサトオホ
○故新大納言為子、
公卿家傳、上治泉為子、卿正四位
下為邦、朝臣、舅、祖、文、權、中、納言、為
秀卿、為子、康、女、元、辛、丑、年、誕生、

應永廿二年三月廿八日、廿七歲任
權大納言、同廿四年正月廿五日、廿十
七歲、薨、法名、大雲、又云、公卿補
任、諸家傳、補任、藤、存、系、通、並、同、公
卿、補任、按、當時、藤、氏、正二位大
納言、公、俊、實、永、忠、定、兼、宣、宗、氏、實富
天、人、の、最、末、新大納言、稱
セル、ル、ベシ、此、次、公、俊、正二位

ナレバ
殊し

○五條三品コト右

公卿家傳、後成卿元顯廣權中納言
後三位俊忠卿三男母伊与守藤
敷家女或中納言藤顯陸女永久二
甲午年誕生永万二年八月廿七日叙從
三位仁安二年正月廿日廿四歳叙正
三位安元二年九月廿日六十五歳出家

法名釋阿依痛也建仁四年二月廿
日九十一歳薨云藤原系高俊成元
顯廣皇太后宮大夫正三位号三條法名
秋河元久元十廿歳九十一云三品コト三
位唐名也

○細川の庄を序コト右

恒富文集系譜略、後成為皇大
后宮大夫家居五條世稱五

候三位上^上賜^テ播州三木郡細川
庄^上江州地^上郡^上小野庄^上是為傳歌
所奉^上邑^上適子世々^上襲封^上為
家有子三人長^上為相權大納言
号^上御子在^上其後商稱二年家又号
冷泉次^上為教左兵衛督号^上草極
季^上為相權中納言号^上冷泉三
鼎崎名^上之門^上元年中^上以書者

付播州細川庄^上為氏^上在後為氏有
不孝教^上集^上為家悔之^上之永十年
西七月廿四日^上壬午^上可成六月廿四
日^上以^上文券^上西通^上付^上為相^上建治元年乙
亥七月一日^上為家^上薨^上葬^上塚^上中^上院^上
為相^上尚^上幼^上故^上為氏^上強^上奪^上細川^上庄^上
十六^上和^上日記^上長^上歌^上須^上磨^上石^上乃^上了^上
也^上子^上細川^上山^上内^上山^上川^上之^上同^上書^上跋^上身

け阿佛庵と十人の定家の息存あり
ま也公をまわんわしくの播磨玉切
川の庄と為家より鏡りおのまも也
為氏他腹するよりん押欲り訴訟
のよあふ深倉へ下とせしる三、播磨
国名所産物記下三木郡細川
庄の名こけ庄は牟極中納言定家の
の末地よりん天正の比を治泉家位

なりん今より大雄寺とて寺子俊成
定家西郷をけり塚などあり治
泉家よりんとけんごらよ治昂ひあふ
子し為相々の家とん

しりより郷人のおんごら今
かけぬ細川のまとき今播磨国
美濃郡細川庄とて治泉
川中村金屋村陽川村大柳村桃

汰村、高篠村、高篠新田、佐野村、

西村、と九ヶ村あり

○ 藤原北入殿殿時

鎌倉大日記、按、細川右京大夫満元

入道、通観、細川系、満元、頼元、息

右、即、右馬助、従四位下、右京大夫、法名

通観号、悦、通岩、栖院、歌人也、其、傳

歌、入于、勅撰、應永之比、管領職

九箇年、同三年、出家、同廿二年十

月十六日卒、四十九歳、永祿、抄、細

川代、次男、岩、栖院、通観、通号、悦

通、頼元、息、満元、右、即、従四位下、右京

大夫、應永、比、職、九年、應永、廿年、丙

午、十月十六日卒、四十九歳、右京北、右

京大夫、唐名

○ 正三位大納言子あり、
左、寺

為平御正三位正二位の御爲候

○番馬右

西遊行囊物の巻き番馬自醒井到
于此一里を過り壹軒右にあり元弘亂
二年仲時以下自害地に右塔あり故
六波羅山下云々追分番場の末
ヨリ右に入り嶋あり元番場右也云々
因郡近江坂田郡に指針番場醒井

柏原の順功あり太事記九番馬番

馬名番馬峠梅松論上番馬の名

番馬の道場江濃記馬場の峠あり

尺あり

○墨股河左

神名帳下の義濃目女部思ひ候神社
西遊行囊物の下の洲候河舟渡也
川ノ原前ノサタリ川ノ如し此水上ハ航

群山より流し出るる長濃谷所和歌
是侯川長濃路是侯駅の所の川
成久政根一の考は長良川河渡川
傍川同流也山縣武義郡止賀氏河
郡の川所々多流合長良岐阜河渡
河墨信一流は是侯新川幅而河余川上
ハ芥見麻毛岐阜長良河渡是侯川
同流本郷皆舟渡ナリ云々更級日記

日古の考は云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
記残月抄の考は云々云々

○おびなむ 七丁 左

太平記十九卷青野原軍殿
三番は今川中郎入道三浦新介阿
字賀ニ打出テ横道ニ懸ル所ヲ南
部下山筑城入道一万余騎ニ懸合

此河トイハ州侯川カヨシト是カ見テ
 東遊行囊物六ノ深町小喫橋阿字坂
 村自貴村坂井邑大腸村小隈村御
 旅館洲侯川州侯上順次セリ西遊
 行囊物六下ニ阿字坂邑二切カアリ云ハ
 小喫ケ橋阿字賀村ノ出口ニテリ古先傳
 云々
 此河トイハ州侯川カヨシト是カ見テ
 東遊行囊物六ノ深町小喫橋阿字坂
 村自貴村坂井邑大腸村小隈村御
 旅館洲侯川州侯上順次セリ西遊
 行囊物六下ニ阿字坂邑二切カアリ云ハ
 小喫ケ橋阿字賀村ノ出口ニテリ古先傳
 云々

火出ル程ニ戦タリ今川三浦元来小
 勢ナレバ打負テ河ヨリ東(引退)シ

此河トイハ州侯川カヨシト是カ見テ
 東遊行囊物六ノ深町小喫橋阿字坂
 村自貴村坂井邑大腸村小隈村御
 旅館洲侯川州侯上順次セリ西遊
 行囊物六下ニ阿字坂邑二切カアリ云ハ
 小喫ケ橋阿字賀村ノ出口ニテリ古先傳
 云々

テ曰尾橋ノ是也云々
 尾張國桑原郡此郡モト尾張
 國ノ隸元ニ中流河流變ジテヨリ隸
 知レテ是濃ニモ隸元也

○ありて左
 存經義ノ字氏葵 湖月寺 木のう

げゆる所けしき甚くあり一なるよし
ゆりりしき後撰、志ニ忠目

いふりしきの方さ、いほのちまかひり

ありつゝまじりちまけあつし、此外

アリヘアリヘアリフルアリフル、本歌集

物誌書ハ所見、悉ルニ、直アラス

○つゝあのみよ ヒト

上文こころごと云ふト、是也、尾張

志田馬子 志田馬子
はあつちのあつち
くろのあつち
をなす

国高之葉、深郡、尾田村アリ、竟者

賢居士記ニ、廿六、なうし、地をいふ

黒田ちうく、あつちりしき、昔、あつち

あつち

あつちのあつち、あつちりしき

くま、牛、あつち、はく、あつち、あつち

はあ、あつち、あつち、あつち、あつち

地、川、あつち、あつち、あつち、あつち

嶋郡下津ノ宮ヨリ一宮黒田ノ經テ
洲候川ヲ渡リ、美濃移レル道筋ニ
新撰歌枕美濃國部紅雲田川長
明

田ノ子カノ白波、此黒田川ニ洲候川
ノ名ニ天里田ノ里近ク流ル、故ノ名ナ
ルニ里田ハ景采郡ニ天里張ノ内ナ

テ美濃ニ近隣ニ里ニハ同知ノ如シ
美濃民々久岐根^{上の巻}部^高ニ微書
記配所、今正福寺地多藝郡大
墳也ニ舊跡アリ、東福寺ノ拓月
庵正徹寺日記ノ僧年歌人也、長
保三年寂ス、歌題和歌集歌、活
桐新月、

ちるを松之ぬとあうのちみわ

木の葉をふる枝のさへ月ひきあまらえ
とくくやれけりぞえ

中まよひきいこみぬいづちのこり

らんものもいふのまなひのあまらえ

やうくしをさるとちんオホツカ大墳村を焼

存よりあつてあやむいづのあつる

をいふ

まじらうしあつとくちの焼たの

さきさきのけりうのいふあまを
あやまらうやみぬるをいふは
正福寺子ありて

〇^{チカテラ}子おほまの地蔵左

地蔵靈験記の巻の段の中古美濃
因十嶋ノ傍ニ賤下廿一人侍リキ云々
こしき河こことし置たりケルガ洗テ
引上見ケレハ中ニ御長一尺丹ノ古

件ノ地蔵アリ云々夫ハ黒田市ニ出
テ云々御僧ハ何地ニ御座ト申セバ
蔵王院ノ傍ニ位ナリト云カキケス如ク
ナリ云々是安和三年三月中旬ノ事ナリ
云々蔵王院ノ傍ニ送り置ベシト御
示レハ件意如何不及凡慮云々
銘ノ書付テ蔵王者云々傍ニ安シ申シ
且身ハ出家シテ一心ニ地蔵行人トシ

ナリニクハ美濃、国乗ヨト云、里ナリ云、

○^{イキテケ}げ^{九丁}仏^右

げ佛トハ右ノ地ニ院ノ地蔵ヲ指セル也

○^{イナ}軍^{のそ子}ノ^{九丁}

明徳ノ比^{イナ}軍ノ場ニナレリトハ明徳

記中卷ニ云々、年美濃、国ノ凶徒

ノ御退治ノ旨戦モ上意ノ如ク成ニテ

奥州候聞給テ美濃勢ハ平録ノ

者共ニテ加様ニ成行物ナルベシ當家

ヲ彼等ニ此セラシバ御事ニ相違ナルベシ

ナト詞モ不残宣シガキ、抑此ニ及ノ

人々御退治有ケル澄觴モ康行

舎弟伊藤守貞^{守貞}が故トシテ聞クニ此

伊藤守舎兄大膳大夫行官ニ在

第ニ美濃^{美濃}兩國ノ事共伺申ケル

時分内々一家ノ惣領ノ心懸テ免ヤ

○一子以爲教
上之圖之加云
公年之每度蘇州抄員也
行年下向之加云
屈之加云
豫守上一台教也
華之加云

セシカリヤアラシト、ある居りしが所詮
イトコノ宮内少輔ヲ饒シ失ヘシ智
ナレバ定テ康行是ラ扶持スル其時
同輩ニ申沈メテ家嫡ニ立シタル思
ヒラツシ淺穢ケレ先宮内少輔不俟
ノ由達々ニ説シ申ケルニ宮内少輔
侍聞テ上意トシテ御不審ラ蒙ラ
バカラスシ嶋田カ説ニ依テ生涯ヲ失

ニ事ハ念シク至極也如何モシテ伊
豫守ト一合戦セシムル物ヲトあるニ
屈シ先知ニ危張因ノ守護職ヲ申
行テ下向シタリシカバ危張因黒田口
ニ於テ既ニ合戦ニ及ブ且多リ以来度
々々年々毎度豫州打負テ逃タリ
トノ聞エシカバ云々

○このよのちのち衣九丁

按三河のまろき衣イロ字詰ツケニ天テンこゆの
まろき衣イロナルは中ナカ装束功鈍色キナシ白
衣イロの香カ澤サハ事コトのまろ鈍色キナシ贈オモ色イロし
付ツケテ鈍色キナシト云イハ又マタ推鈍シヒキナシト号ナス其ソノ
由ユ可カ知チル之所ノ詮ケン素ソ絹ケ絹ケ色イロニ天テン不
淨ケガレ也ナリ本ホ射シヤ鞆ツツヲ云イハ又マタ徒タラ僧ソウ如ニキノ所ノ
用ヨウ大オホ命ノチ如ニ也ナリト又マタ此コノ鞆ツツノニ素ソ絹ケ絹ケ
鐵テツ色イロノ衣イロヲ云イハルルト云イハルル鈍色キナシト云イハルル同ドウジ

○優婆塞ウパサイ右ミダリ丁チヤウ

親オヤ氏ウヂ要ヨウ覽ラン上ウヘ卷マキ初ハジメ部ブの優ウ婆パ塞サイハ
奉ホウ言ゴン善ゼン宿シュク異イ説セツ破ハ戒ケイ者シャ故コ又マタ梵ハン三サン
耶ヤ波ハ素ソ加カ行コウ言ゴン近キン事ジ男ナン諸ショ親シン近キン
承スヘ事ジ諸ショ佛ブツ法ホフ故コ天テン竺チク受ウケ五イ八ハチ戒ケイ結ケツ
人ヒト種シュ類レイカ云イハルル清セイ信シン士シ云イハルル俗ソク解ゲニテ戒ケイ法ホフ
ヲ存ゾンテル翻ヘンシ云イハルル女メハ優ウ婆パ塞サイ矣ナリト云イハルル
諸書ショ所ショ見ミ多タカカバ有アル久ク

去同玉か付十三日
公くせりえしぞ
集物況意のあえ八枚
不カラス

○ 翠もやあり

松風音破うし
李高徳詩錦
陸游詩榻上
邊桐尊冷生秋

○ ぬきはひら

草花云自三月
名環草味苦
云一箇心方廿九
奈波云日本紀

鶴サキ尊ミコト歌ウタ。游ユ巨コ多タ摩マ屋ヤ。佐サ游ユ能ネ伊イ戒ケ珥ヰ奴ヌ那ナ波ハ區ク利リ破ハ。陪ヘ難ナン區ク詩シ堆タイ珥ヰ云クニ古コ身ミ記キ應オウ。仁ニ段ダン三サンママ二ニ。

○やぐナニ

和名物居宅部ワナモノイタクベ。唐韻云タウオン楷音カキオン音オン。辰垣チケン也ヤ。過カシシ天テン盜賊ダウタクナドノ用心ナドノウシンセシ也ヤ。楷カキ音オンノ子コビヒ楷カキ音オンノ子コビヒ楷カキ音オンノ子コビヒ。

城上守シロノウヂ御ミコト接ツグ也ヤ。内典云ナイドン郊キョウ敵テキ接ツグ。橋ハシ夜ヤ久ク食シク舟フネ具ツグ作ツク艦クニ云クニ。

○あきナニ

敵テキ防ボウ衛エイセシヤ。柳ヤナギカニカニ云クニ也ヤ。勅ツク聚クニ名ナ新シン物モノ之ノ禁キン也ヤ。拒ク防ボウ衛エイ抗コウ下カノ字ジヲヲ列レケトト訓クニスクニ。日ヒ本ホン紀キニニ此コト記キ。

○長ナガ竹タケ上ノ周シウ

寢ネ殿テン西ニ之ノ廊ロウ。竹タケ陰カゲトトイイリリシシ由ユ也ヤ。竹タケ心ココロ生ナマ付ツキ。

陰カゲ ナニカ ナニカ ナニカ 白樂天詩カ

山僧對碁坐局上竹陰清カ

○補陀大士カ 上カ 同カ

觀音大士カ 翻譯名義集カ 三

卷裏山篇カ 補陀法カ 加カ 或カ 云カ

補陀法カ 加カ 此カ 云海カ 嶋カ 又カ 云カ 小白華カ

西域記カ 云カ 有カ 咀落カ 加カ 山カ 南海カ 有カ 石

天宮觀自在菩薩遊カ 舍カ 云カ 什カ

祖鏡紀カ 早カ 三カ 卷カ 法カ 運カ 通カ 塞カ 志カ 九カ

日本國河門慧鏡社カ 上カ 臺カ 山カ 得カ 觀

音カ 像カ 通カ 四カ 明カ 於カ 禪カ 目カ 舟カ 過カ 補カ 陀

山カ 附カ 著カ 石カ 上カ 不カ 得カ 進カ 衰カ 疑カ 懼カ 禱カ

之カ 白カ 若カ 尊カ 像カ 於カ 海カ 東カ 棧カ 緣カ 未カ

熟カ 請カ 留カ 此カ 山カ 舟カ 即カ 浮カ 動カ 鏡カ 象カ 莫カ

不カ 能カ 忘カ 乃カ 統カ 屬カ 海カ 上カ 以カ 奉カ 之カ 云カ 山

在大海中カ 去カ 鄧カ 城カ 東南カ 水道カ 六百

里即華嚴所謂南海孤絕處有
山名補怛洛迦觀音菩薩位
其中也即大悲經所謂補陀落
迦山觀世音宮殿是為對釋迦
佛說大悲心印之所其山有闍
音洞海潮吞吐晝夜砰訇洞前
石橋瞻禮者至此懇禱或見大
士喜生或見善財俯仰將迎云

見云
觀世音補陀落山位以
於山補陀大士
氏家覽上卷稱謂部上士
伽論云無自利利他行者名下士
有自利無利他者名中士有三利
名上士上士具二利有大人行無
名大士

○神考
十二
丁左

射丸ノルヲ延テラシト云老心ヲ
オイラリ云ナラシラナラシト云同
語ニ有様ト云同平家物語七
巻木守日領書ノ年ノ覺明ガ其
日ノ為體ニ大平記世ニ卷云
客下事ヲ年ニシカラズノ體夕
ラシクニナド所見オホカリ

○禪録

同上

禪字ノ諸録ニ傳説録老智録を
閑碧巖集拾評ニ百則ノ歎ス禪

○無慚

同上

家ノ諸録ヲ指ス
無慚ハ慚ヲ知ラズニ放逸ハ放逸ノ
無慚ハ平治物語中卷新朝落者青葉
頭殿符存堤ニテ若者共ハガ先カト宣ハ

右是二候ト答ラレシニ兵衛佐オシテ
其義朝無^カ慙ヤサカリセリ若敵
ニヤ生捕^ルト道ハ云ハテ家物詔
十の巻請文^ニオ^シ京ヨリ中おカ云オ
コシ^ル事ノ無^カ慙サ^レ實ニモ心ノ中
イカ^ク計^ル事ヲカ思^ハラ^レ云^ハい^ハ外^ノ物
無^カ慙^ル語多^ク見^エテ^ハ^ハ昔^ノ助^ク
ヘオ^シラ^レエ^テ覺^ル目^ヲア^レセ^ルル^ハ公^ノキ

一^ニ有^ル慙^ル徳^コシ^ノ語^ハ常用^ノ年
部^ニ無^カ慙^ルガ^シク^テ遺^レ教^ハ恒^ニ睡
眠^ニ出^テ乃^チ可^ク安^ク眠^ス出^テ而^シ眠^ス是^レ在^ル
慙^ル人也^ニ注^ス意^ハ覆^ル真^ニ性^ヲ増^ス長^ス在^ル
明^ク也^ニ睡眠^ノ之^レ過^ル思^ハ是^レ無^カ慙^ル也
云^ハ法^ノ死^ル珠^ノ林^ニ廿^ニ卷^ノ慙^ル愧^ノ篇^ニ
如^ク延^ル論^ニ以^テ何^レ名^ス無^カ慙^ル若^ク曰^ク可^ク慙^ル
不^レ慙^ル可^ク避^ル不^レ避^ル不^レ喜^ス系^テ敬^ス不^レ喜^ス

從來此語在慚字新修沙論云
對非親教執氣造氣而不
是在慚字放逸以呂波字教
於波部置字門之放逸字
云釋氏要覽中老勸懈部
放逸正法念氣經云此放逸
過一切過中最为勝上又惡
癡樂放逸者多諸苦惱者

離放逸者則得者女對一切
諸苦樹放逸為根本是故欲
離苦者捨放逸又云順法而
行遠離放逸則用一切惡
道之門云云無慚放逸一名曰
諸乘法教隨煩惱心在法
生要集上有考結獸相

十下之三

○ 勢 下老

倍ニナカト云ニ同ジクニ身ヲ強ル

由ナリ、万葉四の巻廿三丁若山山女王、
物念路人亦不見常奈麻強常念
弊利在言金津流、以言波字類抄
其の巻奈部辞字門、終ナシニ、道
邪強已上同見文集云、常用集
左部、言辞門、秋心ナシヒニ云、詩
小雅十月之交、不秋心道一老、等、
不秋、自彊之辞、秋心字書、實觀

○ 詩^カ編^カ 丁右

詩^カ字^カ相^カ遊^カへり^カ 幸^カ論^カじて^カ 軒^カカ^カキ

由ナリ

○ 灯^カ上^カ人^カ上^カ同

梵^カ灯^カ夜^カ生^カし^カ 蓮^カ歌^カの^カ 宗^カ匠^カ時^カ人^カ 徹^カ書^カ記^カ
ヨリ^カ先^カ塔^カ等^カし^カ 北^カ野^カ洞^カ宮^カハ^カ 此^カ梵^カ灯^カヲ^カ 登^カ
し^カ 由^カ云^カ侍^カ一^カ等^カ

○ 不^カ堪^カ 丁右

不^カ能^カモ^カ 同^カ 郭^カ三^カ 其^カ 筆^カニ^カ 堪^カガ^カル^カ云^カ 即^カ
用^カ集^カ 不^カ部^カ 言^カ 律^カ 門^カニ^カ 不^カ堪^カフ^カカ^カシ^カス

○ 詞^カ人^カのみ^カ 丁右

和^カ歌^カハ^カ 其^カ 詞^カハ^カ 身^カ立^カヌ^カ ヤ^カク^カコ^カム^カバ^カキ^カニ^カモ
由^カ也^カ 悅^カ目^カ 抄^カニ^カモ^カ 云^カト^カモ^カん^カウ^カク^カ 耳^カ
み^カと^カら^カニ^カ 其^カを^カ 執^カる^カニ^カ だ^カう^カも^カ 詮^カ子^カ
て^カ 我^カハ^カ 詞^カハ^カ 其^カ 身^カニ^カ 依^カり^カ け^カ 其^カ の

魔心尤おたこし、思親也抄三者たる討
の身よたるあゝまゝに年かあや
こゝ、毎月おのし、耳よら初めら
らゝゝい、たゞとらゝゝい、ねん、二字こ
字にあや、まゝらゝゝい、あゝまゝに、
まゝらゝゝい、い、お、見多かり、

○ 了俊十五

今川左京亮負世の入道名、尊

早分脈五の考 清和源氏新家流、
三河新氏① 其代孫今川也、即因
範男上総介範氏弟、負世正五位
下伊豆守、左京亮鎮西探題、法名、
了俊十五

○ 風の樹頭十五

権藤の風如物心、下、由也、
何、空花水月、風過樹頭、
詩、樹頭、蜂抱花、
池

此、
過、
樹、
頭、

面笑吹^テ柳絮行^ニ夕樹頭^ニ初日^ニ照^ス
西^ノ簷^ノ下^ニトモ作^リ

○旅人^ト十六^ノ

我^ガ身^ガ方^ノ人^ノ由^セカ^タヒ^トラ^ニ言^ハ便^ニ
カ^タウ^ド云^ヘリ^ノ敵^ノ木^ノ身^ノ下^ニ

物^ノあ^らひ^のら^んふ^のか^いん^のあ^らじ^き
か^けト^らげ^いな^きあ^らじ^き枕^ノ草^紙若^婦
物^ノ本^ノ思^ハ卷^キ仲^ノた^らの^かう^とじ^きい^ふも

え^こや^まら^ぶも^とい^ふま^らし^き此^ノ所^ノ見^える^し

○ぬ^いが^ぬ丁^左

ぬ^いが^ぬま^まら^んも^らづ^ート^ノ本^ノ名^ノ
由^ニ正^ニ徹^ガ旅^人ノ^ト産^ノ欣^ト親^ノ
ナ^リ行^クニ^ニ自^ラ然^ニ衣^ノ裁^出テ^音
ス^ル人^モアル^ベシ^ト也^裁出^ルト^ハ衣^ノ裁^出テ^音
モ^テナ^キ名^ラズ^ル也^裁出^ルト^ハ衣^ノ裁^出テ^音
物^ノ裁^出テ^音一^段

名を以てしむるを名づきたるは
後世に名を以てしむるを名づきたるは
後世に名を以てしむるを名づきたるは
後世に名を以てしむるを名づきたるは

今昔離別云々

何れもその名を以てしむるを名づきたるは

何れもその名を以てしむるを名づきたるは

何れもその名を以てしむるを名づきたるは

〇きりぎりす 下右

くげのうらみん 龍舟の川のまはりに
すまぬ名をよやむまんとし 拾遺物
名を以てしむるを名づきたるは

沖のうらみん 龍舟の川のまはりに
すまぬ名をよやむまんとし 拾遺物
名を以てしむるを名づきたるは

龍舟の名 龍舟の名 龍舟の名 龍舟の名

又名を以てしむるを名づきたるは

龍舟の名 龍舟の名 龍舟の名 龍舟の名

又名を以てしむるを名づきたるは

〇ちまふ川 上同

流ル、流ス、名所ノ洞川ニヨセテヨメル也
流川ニ山城伊勢~~ノ~~後
撰離別ニ~~ト~~ノ伊勢カノ名クオカク
けるよ、

君~~ノ~~り~~オ~~子~~アリ~~る~~流~~川~~カ~~ら~~ハ~~
秋~~ノ~~ミ~~モ~~ち~~ラ~~ズ~~ズ~~な~~ル~~夫
木~~カ~~難~~六~~河~~部~~ニ~~ニ~~祭~~主~~輔~~親~~

流川舟~~カ~~ら~~セ~~キ~~シ~~ノ~~海~~ノ~~カ~~ら~~ハ~~
る~~ノ~~流~~カ~~ら~~ハ~~レ~~ラ~~伊~~勢~~カ~~ニ~~又~~伊~~
勢~~物~~語~~ニ~~

い~~ら~~る~~カ~~ら~~ハ~~い~~ら~~る~~カ~~ら~~ハ~~い~~ら~~る~~カ~~ら~~ハ~~
こ~~ノ~~流~~川~~カ~~ラ~~ハ~~レ~~ル~~カ~~ら~~ハ~~い~~ら~~る~~カ~~ら~~ハ~~
日都~~所~~キ~~所~~人~~カ~~レ~~バ~~山~~城~~カ~~ラ~~ハ~~レ~~ル~~カ~~
新撰歌枕三卷山城部ニ古今ノ八
惜川も流川と云ふと云ふ之のりニ

○まよふ 丁七

尾張國地名清州の清州清州と云ふ評
也尾張國高之若日井郡清州云
東遊行囊抄云老之清洲自名讓屋
到于北三里高島是通所右方アリ平
城アリ云

○まよふのありと云 左同

古今集廿六歌所少歌みづまが

みづまの島の屋敷ヤガみぢと称と
物との解の舞の深は七ミヅマハ
是ノ枕詞是ノ屋敷ハ山城ノ地名ノ
霜ノ降りハ毛ハ霜ノ降ルサシ云朝
明ノ霜ノ多ク降ルヲ云テ詞ルシ詞
ハ嘆息ノ詞

○しなごの山下右

古今集離別ノ在行平朝臣

○ 昔の秋ノ詩ヨリ 正徹ニイヒオツセタル也
 ムソモ在テモ 秋待ニツ 松風ナル人
 ウハノ空ナル オホカタノ 風トヤ 聞ラント
 古今身色也

○ 何んは 秋の 葉の 色なりしを 見
 ああらも みる ちぎの さぬ ぎも は
 かぎ 天 ぐうぬ 秋 は 已 せ ぞ の 心

豊秋ノ歌ニ 夕ノ夕ツノ 年々
 待付シ一夜ノ 天トセリテ 又
 飛ツ領中ヲ 振テ 来ニ 秋ニ 待
 ニアル 事 候 也

入心文

秋ノ詩

古く漢トラント也セバ干ヒツモアラヌ
由也松浦佐用姫ガ領中ヲ振テ夫
ヲ懸果ハル故事ヲイヒコセタリ
其巻廿三丁^山上憶良松浦歌麻
都良我多佐欲比賣能故何比列布
利斯志麻能名乃義衣伎都遠
良武又廿四丁二大伴佐提比古郎子
特被朝命奉使滿目辨梓言

隙稍赴蒼波^波也松浦佐用續
面暖此別易難彼會難即登
高山之嶺遠望離去之船悵然
断肝贖死銷魂遂脱領中魔
之傍者莫不流涕因號此山曰領
中魔之嶺也乃作歌曰得伴都又
等麻通良佐用比米都麻故非尔
比例布利之用利於近流也麻能

多カシハ寄ルコトス天津比社トヨルモ
万景ナク巻セテ秋風吹深向
雲者織女之天津領中毛託ナド
万景身中モ其外モガカラスモ

〇もろこのよりけし山 右 廿丁

古今集雜諧之左のおほいおもしろきみ
もろこのよりけし山 右 廿丁
いんとありのよあゆあらしよひかきハ

大和ノ吉野山ヤマトハイト深山ミヤマナレドソコハ
モカハトハ唐モロコシモカハル吉野山キノ姫
深山アリテ人ノモリトモ我ソノ跡
ヲ鼻ヒ行テ後レントハ思ヒト也實
ニ唐モ台野山アルハラス深山ミヤマナレハ
タトヘ也

〇く 同 上

彼田ナリ 音形が正徹ニアル也

○あまのみが 世丁 左

生田の川よきあるバトハ 和物語

口傳題をよきく 考家卿

初のあるもたる 和物語

しと下ひあり 和物語

臨期遺約也

ありひあり 和物語

ち 和物語

はのら 和物語

ふみ 和物語

○あま 世丁

此歌ハ浮氏物語ノ雲井ノ鳥ト云

葉ノ宮ヲ夕雲ノ火ノ尋思ト云

又た也 和物語

アロク 和物語

嘆号也 和物語

類聚名 和物語

トノ字 和物語

あやうきよこごころのしある物とい
るのこゝろあたることあるふん、長方身^ニ
わがなるけり、病もあるものことある
あやうの神のまや、深慮之身^ニ
初まあるにまふん、山房よあやう
なるや、病のあるま、和泉式部身^ニ
かしきんね、ねわぬわのこゝろ、
あやうきよあはるる、深慮相^ニ

あやうきよこごころのしある物とい
るのこゝろあたることあるふん、長方身^ニ
わがなるけり、病もあるものことある
あやうの神のまや、深慮之身^ニ
初まあるにまふん、山房よあやう
なるや、病のあるま、和泉式部身^ニ
かしきんね、ねわぬわのこゝろ、
あやうきよあはるる、深慮相^ニ

〇ころを
丁右

澤氏 玉鬘 三長谷 三ウヅル道ノオト
標解 里ノ法師ノ家ニ玉鬘ト右
近下 軟階ヲ中階ニテ根ヤドリ也
事也

○あくしの栢のとがえも 穉いあまの 丁右 廿一

伊氏 若しあまのひども

あくしの栢とがえも ちまのあまの
あまのあまのうらをえりし栢のあまの

月清集下の秋阿

うはくろ 吾道 君うはくろ
あまのあまのうらをえりし栢のあまの
典侍光玉

部人あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

その名の後撰
卷下三巻右五
その名の後撰
その名の後撰
その名の後撰

和名抄の巻雅云、柁謂之根孫炎曰、
戸之樞也、和名度保留、東雅曰、
トボツとよめ、凡物のサー入る所をオヅと
よめ、其の傍子クルともクルとも云物
申え、門扉のやうに開閉する所を
○是成の山柁戸を稱する也
拾遺愚草、申の定家也、

おのれの山柁戸をわたりあそぶ

その名のド、その名もあつらん、山柁戸は、

万葉ナメ

是日木柁山柁戸年開量而昔
待君年誰留所詞林糸葉抄ハ
卷之山柁カニニ木アリ、一六櫻ノ木ヲ
板ニ取テワクリシル也、一六櫻ノ若木
ヲウテ垣ラシメテカヲ一六明人ノ
出入トシタルヲモ云シ云、按、真木戸

○ 丙丁童子了心丁右 櫻ノ板戸也

○ 丙丁童子了心丁右 拾評三言則中卷三言云
丙丁童子了心丁右 丙丁童子了心丁右
○ 正微丁左 草振身與書之秋正微字清之翁
依姓記氏為東福系書記因号微

招月庵まげ 高名集たかなま 正微書記しやうび 清岩世稱しやうがん
山階さんかゐ 之清岩しやうがん 因名歌号なま 招月在氏まげ
族備中国しやう 小田也こゝ 詠序じやう 名号なま 振集まげ
書記詠詠世之和歌故謫山科
高名集正微書記清岩世稱
山階之清岩因名歌号招月在氏
族備中国小田也詠序名号振集

首長公製序今川了俊治象為子
卿二人之門弟也（言）弟正廣正般正岡
宗時遊敷島道者（言）不同律唯存
飛鳥井雅世克孝法印（言）姑（言）心微之
天才故詠歌不入新統古今（言）す
心敬信都和歌師清嚴尤長連
歌入新統彼集文明七年四月十六日
死七十歳（言）應仁記裏存一倭漢三才
面會山城名勝志山州名跡（言）兼志

高難是（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~
能子ハけ（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~
出タリ（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~
○正徹の（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~

○女のかみ 丁巳

此野・松梅院（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~
伊勢物語（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~
みをとる（言） ~~...~~ ~~...~~ ~~...~~



山城名勝志七の巻に松
梅院在天通宮東鳥居前北野社
備え

○^カ乞の袂 ^ト丁右

老人の袂 ^カカ ^イイ ^ノノ ^袖袖 ^ナナ ^トト ^モモ ^イイ ^リリ
中務

家集

今さらよ老のなるよ老のなる人
ふんたる若葉ほむれ以雅雜上

海軍国

まきらぶらうらぶらうらみー

老の袂 ^カカ ^イイ ^ノノ ^袖袖 ^ナナ ^トト ^モモ ^イイ ^リリ

○ ^カ三男 ^イを ^ノの ^トと ^モモ ^イイ ^リリ

とらり ^カカ ^イイ ^ノノ ^袖袖 ^ナナ ^トト ^モモ ^イイ ^リリ

あ ^カカ ^イイ ^ノノ ^袖袖 ^ナナ ^トト ^モモ ^イイ ^リリ

猶如火宅 ^カカ ^イイ ^ノノ ^袖袖 ^ナナ ^トト ^モモ ^イイ ^リリ

色界 ^カカ ^イイ ^ノノ ^袖袖 ^ナナ ^トト ^モモ ^イイ ^リリ

仁王護國品三男
皆若固有有頼新
欲三三男を女固有
何由より

欲白也。色界ハ十八天アリテ、女形ナリ。欲
深ト是皆化生ト云。尚色質アル故ニ
色界ト云。色界ハ四天アリ、但識
ノミアリテ、色微細ナリ故ニ色界ト云。此
三界ニ等シク、安キ心アラシト也。
三歳法教、上ノ卷、**大蔵法教ハ**
卷ナドニ 集珠林
○ 六ノ巻ニ生カスルヤ、同
六道ハ天人、阿修羅、餓鬼、畜生

地獄ナリ、**天** 天道ハ天竺、自他、樂勝
シ身勝シ云、人道ハ忍心、世苦樂
ノ境ニ在テ、女急ブラ云、阿修羅、鬼、
男、醜女ハ端、海岸、海底、或ハ須弥山、
巖窟ニ居テ、常ニ闘戦シ、好ム餓鬼
道ハ海底、或ハ人間、山林中ニ在リ、其形
或ハ人ノ如ク、或ハ獸ノ如ク、飲食不自由
ナルヲ云、畜生道ハ羽毛、鱗、甲、蛇、一

ミラス、互ニ相吞取シテ、受若窮、在云云、
地獄道ハ地下ニ有テ、饑渴、鋸樹、
身アルツ云、三蔵法教廿七、卷ニ書シ
其外所見、故等ニ違ナシ、四生ハ卵生、
トテ卵ニテ生シ、胎生トテ胎ニテ生シ、濕
生トテ濕氣ニヨリ、胎ニテ生シ、化生トテ變
化シテ生ズルツ云、人ハ白生、鳥ハ白生、龍ハ白
生、胎アリ、三蔵法教十六、卷十七、卷ニ

法苑珠林、十四卷、篇下

出ク

○十界ジツカイ一イチ如ニ下カ右ミ廿六

十界ハ十法界シ、佛、菩薩、緣、見、聲、
聞、天、人、阿、修、羅、鬼、畜、生、地、獄、六、道、
ニ、佛、菩、薩、緣、見、聲、聞、鬼、人、四、ヲ
加ヘタル也、三蔵法教廿九、卷ニ書シ、一、如、
ハ不二不異ヲ云、即、真、如、理、也、魔、界、
モ、佛、界、モ、其、性、本、一、ニ、故、一、如、ニ、二、如、

身ヲ...

老翁法一知物
ヲ考合ス

ト云ヨシ同書四ノ卷ニ之ニ日暉書録外ノ

○
原存句讀樂レ切レ切
天ニ地ヲ以テつるんちトヨクニ北野ノ
○
北野ノ野木遠ニ味アリキ
世ニキ由リハ也夜モガラ月見
北野ノ野木遠ニ味アリキ

人ヲドモニススナリ
市ノサモ一品モ残ラズバ今月月
ハイカニ教サカラト也キハハ欽明
紀ニ饒富ラニキヒト訓新撰字鏡
六加字ヲ本支波々志トヨリモト
富饒ニ物忌ヒクルヲ云ヒ然テ繁島ん
事ニモイハル也

○
丁右

顔ニクキラシム所民松風ハシ鬢ヒゲぞるは
やのみきも糸髪カミも髪鬢ヒゲも髪ああアハらラんン
さるサらラまマしシとトをヲまマりリ冷ヒヤ標マシ沖シおオしシらラひヒをヲ
らラまマらラあアやヤトトアルル岫シ江カ入リ楚シ本ホ三ミはハ
やヤらラくクくクぞゾくクえエなナあアやヤトトアリリ

○大ダイのノ結縁ケツエン上ジョウ同

大ダイのノ結縁ケツエン上ジョウ同
大ダイのノ飄ヒヤウララ嚙カウへヘササセセテテ引リアリク法ホウ師シ人ニ
此コノ大ダイトトノノ結縁ケツエン一イツ世セノノ事コトニニアアララシシトト思オモハハルル

善燈録ゼンロク廿五ニジュゴのノ善ゼン五ゴ
善ゼン説ゼン死シ心シン新シン祥シヤウ淨ジヤウ淨ジヤウ
淨ジヤウ淨ジヤウ又マタ有アル一イツ般パン奴ヌ狗コ
受ウケ養ヤウ得トク養ヤウ度タク牒ダク
別ワケ下ゲ狗コ頭トウ被ヒ研ケン家カ
袋フクロ一イツトトアルル同ドウ日ニチ
録ロクトト云クベシシ

由ユシシ結縁ケツエンハハ縁エンヲヲムムススブブココトトスス法ホウ師シガ
大ダイヲヲ引リアリクモモ縁エンアリテカカククススルルナナリリ
トト也ヤ結縁ケツエンハハ結縁ケツエン也ヤアリリ明メイ月ゲツ記キ
寛カン喜キ二ニ六ロク廿ニ九クニニ今イマ日ニチ結縁ケツエン也ヤ有アル觸シュク
人ヒト々々ニニ同ドウ天テン福フクえエナナトトススニニモモ見ミスス正テイ
統トウ記キ後ゴ醍テイ醐ゴノノ事コトハハ結縁ケツエン権ケン頂テイアリリ

○五ゴ十ジュウ展テン轉テンのノ功コウ徳トク也ヤ
是コノ事コト經キヤウ隨ジ善ゼン功コウ徳トク也ヤ隨ジ力リキ加カ演エン

説是諸人等聞已隨喜，復行轉
 教餘人間已，亦隨喜轉教如是，
 展轉至第十人，阿逆多其第十，
 善男子善女人隨喜功德，我今説
 之，如是第十人，展轉聞法
 奉經隨喜功德，尚能受量无边
 阿僧祇，何況最初於會中聞
 而隨喜者，其福復勝。

○雲水の力 丁七

白雲山行記云、
 雲水歩々、
 同之、
 其、
 後之、
 其、
 其、

行脚・僧云、景徳傳燈録八卷
 龍山傳云、師云、我不嘗嘗雲水云、天
 香定智録一巻 丁三、
 雲水、
 部有、
 一、
 一、

○字の内、
上同

外、
 一、
 一、
 一、
 一、

北野天神宮地内外廿二社
 延喜神祇式目山城天
 延喜神祇式目北野式外
 神三座中同街前菅丞相東向
 中羽殿西向古祥女人皇六立代
 村上天皇天曆元年六月九日迁座
 北野同九年三月十日酉時御託
 宣右近乃馬場乃興寧乃地
 我後馬場乃仁移居年保至

新所信仁可生松云天備宮託宣記
 菅家御傳記軍鎮記文梅成録
 廿二社本縁諸神記諸社根元記
 北野天神ノ所見杖形ノ分ラズ北
 野ノ宮号ノ神志ニ宮ノ内外ノ書元
 也宮号ノ事ノ神祇稱号考ニ委ニ

〇スラコシメ
 老人の纏心源氏夕顔
 湖月抄本
 廿三丁左

惟光が父の経あるのゆゑに子孫あり
ののみろくをみりしにゆるしき河
海お後撰

とわきばこころのちかき
みづをくちまてめしきるれ一説年
イリあまをいづ胸のわたりせがすここの
胸のちかき中よのくちまをり
三のちかきみりしにゆるしき

おにむつハムトモにツラグムトモにツハサス
ににツラサスににツラグミにににツラサセル
スガににツラノオミナににツハサスにサセ
こいへしト檜垣姫か身後撰身なドに
ツハムト書キ日本今昔物語の美事
波左渡ト許えラ出知トス谷川土階
か詩經の法に児歯老人の流更生ト
云ラ引中瑞雲の天皇の御名を指レバ

児齒ハ長壽ノ相ナド瑞齒ト云ヘシ
ハクムト云カ如シト云ヘシ説キ古ノ確論
ニツ齒サスモ児齒ノ指出生年ニテ
枝ノ撮氣色ノ微ナド云同ジセバ義
豆波ノ年美豆波左ノ同語ニ後ニ
其貌ヲ云事ゾト心得ニ輪記ト云説
カリテ中此ヨリハ多ク此ノ用ナリ
シハ假名モミツワグムト云ヘシ字治指

遺ナニエカクワグムト云詞モクニ



○正徹高花 休懐和歌序

○盛者ハツニヤ 必衰ヒツスナ 丁名

任之任 經護國經護國 有存有存 自之自之 因緣因緣 成能成能
盛者盛者 必衰必衰 實者實者 必虛必虛 按此偈不空
譯云有為不實有為不實 徒因緣起徒因緣起 盛衰電轉盛衰電轉
斬之有即斬之有即 法上法上 南本南本 法解法解 經二卷經二卷 純陀
品偈品偈 夫盛夫盛 必有衰必有衰 合會合會 有別離有別離 上之
徒生要身徒生要身 上本上本 卷丁名 三引三引 卷丁名

○

焦熱セウネツ シヤウネツ シヤウネツ 同上

焦熱セウネツ 地獄ヂゴク 上ウヘ 紅蓮ベニレン 地獄ヂゴク 云クニ 日蓮ニッレン
シヤウネツ 地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 地獄ヂゴク 書ショ 六ロク 焦セウ
熱ネツ 地獄ヂゴク 大ダイ 叫喚キョウケン 地獄ヂゴク 下ゲ 七シチ 大ダイ
直ジキ 熱ネツ 地獄ヂゴク 直ジキ 熱ネツ 地獄ヂゴク 下ゲ 七シチ 大ダイ
シヤウネツ 地獄ヂゴク 者シヤ 離リ 天テン 熱ネツ 鉄テツ 号ゴウ 三サン 卷クワン 六ロク
由ユ 一イチ 同ドウ 書ショ 四シ 卷クワン 新シン 池チ 書ショ 二ニ 紅ベニ 蓮レン
地獄ヂゴク 下ゲ 申シン 八ハチ 卷クワン 十ジュウ 井イ 一イチ 十ジュウ 卷クワン 其ソノ 故コ 六ロク

アア リリ ニニ 寒カン ニニ ヲヲ ララ シシ テテ ヲヲ ムム 間マ 脊セ 中チュウ
シヤウネツ 肉ニク ノノ 出デ ヲヲ ルル ガガ 蓮レン ニニ 似ニ 也ヤ 况キヤウ ヤヤ
大ダイ 紅ベニ 蓮レン ヲヲ ヤヤ カカ ルル 惡アク 所ショ ニニ ケケ ババ 五ゴ 位イ 好コト
軍イクサ モモ 物モノ ヲヲ ララ スス 獄ゴク 卒ソツ ノノ 呵カ 嘖イン ヲヲ 入イ ルル 藥ヤク
八ハチ 様ヤウ ノノ ニニ アア スス ニニ 對タイ ナナ ララ スス ナナ ヲヲ 三サン 層ソウ 法ホウ 教キョウ
廿ニ 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ 熱ネツ 地獄ヂゴク 寒カン 地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ
熱ネツ 地獄ヂゴク 六ロク 卷クワン 燒ヤク 熱ネツ 地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ
熱ネツ 地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ 熱ネツ 地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ
地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ 熱ネツ 地獄ヂゴク 三サン 卷クワン 六ロク 焦セウ

契地獄ノ實ノ第七ハ波頭摩地
獄ニ紅蓮地獄ニ第六ハ若陀利
地獄或劫海訶鉢特地獄ニ大紅
蓮地獄ナリ大經ニ卷ノ大論ニ卷ノ
卷ノ六ノ卷ノ三ノ卷ノ法珠
林ニ卷ノ翻譯ノ名義身二地獄篇
往生要集上卷ノ下ノ外所已尋生
處ナリ

○金ニ信ヤ者ガ定シ離上同

按テ舊ノ譯ノ仁王經ノ護國品ノ盛者必
衰實者必虛一句南本ニ涅摩
經ノ純陀品ノ大盛者必有衰合會
有別離一句據天作出タ一句上ニ

浮此云勝金大論云同浮樹名其
林牙遠此樹於林中最大提名者
洲此洲上有此樹林林中有河底有
金砂名同浮檀金以同浮樹故
名者同浮洲云西域記云南瞻
部洲舊曰闍浮提洲又曰剌浮
洲也巖銘云瞻部此土之極
當故不翻唯西域記音中翻為

同浮

大智度論廿五卷
廿四下三三之三

穢樹南瞻部洲北屬南狹三邊星
等其樹如車保舍云瞻部洲人
身多長三肘半人壽無定限云
此同浮提之任人云同浮洲年十八

○^同 同浮

極學淨寺願了也阿弥陀經三佛
皆長先舍利未定是西方過十方億

此是此信一淨換信
信施雖多道得道
散心信施二五起
信三後身還信施

○信施二七上同

信施を要すはたす上人信施を度々讃
名由也懺悔最經三在懺虛信

併上有世界名極樂其上有佛
號阿彌陀今現在說法舍利弗
土何故名極樂其國衆生無有衰
苦但受諸樂故名極樂云科
西方寂靜無為樂云

此是此信一淨換信
信施雖多道得道
散心信施二五起
信三後身還信施

施過殺一萬四千之父母最上二地觀
經之受人信施不勤行者十方歲出
餓鬼中受諸苦惱云觀一三卷ノ

淨解信會記四卷
十一丁同卷廿二
淨生年十丁末卷三十一

廿四下法苑珠林廿九卷三藏法教七ノ
卷三十一下三毛之信心之布施スルノ事
淨施不淨施二施ノ中淨施ヲイフ

○己ちるばりのあり上同
新勅撰冬成海

藝苑高名傳正微書記字清岩世
稱山階公清岩因名歌号招日在氏
族備中小田也詠早名尊根真
兼良公製序今川了俊治泉為子
二人之門弟也門弟正廣正般正周
等時遊教嶋道者無不同津唯有
飛鳥井雅世免孝法印一姬已心微
天才故詠歌新流古今多或書

云招日在奄在少科今不詳古來福寺
栗棘在微書記整居之所也其居
在故此人以和歌看アリ或時詠歌
云カラモ凡又天唐ノ鳥モミシ指ノ
ワクル秋ノ三日月此歌壹世ヲ調スルニ
似クナラエ上逆鱗ニ云ヒテ天都下ヲ
進出スナリ按カラモ凡ノ歌ハ秋ノ歌
ナレバソレヲ遊飛世卿免孝法印下

駟傳送許由家武仲隱於沛沢
之中免聞之及致天下而讓焉由
以為汚乃臨池洗身其友巢父
飲犢聞由為堯所讓曰何以汚
吾犢曰吾年於上流而飲見壯子
及高士傳云按潁水之身洗フト
●八耕於潁水之陽トクヒ飲于上流
トクヘルオトヨリ混じ説ル説歎

水經説廿二卷潁水條之縣南對
箕山山上有許由家堯所讓也故太
史公曰余登箕山之上有許由臺
焉山下有牽牛墟側潁水有犢
泉是也巢父還牛處也石上犢跡
存焉又有許由廟碑闕尚存トモ
見之毛上莊子逍遙遊徐無鬼外物
讓王下篇高士傳附會セル説ナ

○此ハ輔行九卷、説ニ格リトス、
我もこの位をへさぶるや上同

莊子道在遊篇、堯治天下之民、
海内之政、徒見曰子、藐姑射之山、
之陽、有光、其天、下焉、

○高山竹林の古人廿丁

高山曰皓竹林、七賢ヲ云、曰皓ハ東園
公、綺里季、夏黄公、南里先生、史

記留庵世家之七賢ハ、字俱珠
六、卷ニ竹林七賢、阮籍、嵇康、
夜、山濤、巨源、劉伶、
秀子期、王戎、潘中、魏、
河内山濤、其為竹林之游、
宋、顔延年、其居詠述七賢、
以、貴顯被駢、袁宏作竹林名、
其、書存傳之、

○ 穆の驍子駟は上同

左傳 閔公二年冬三月 狄人伐衛
衛懿公好鶴 鶴有乘軒者 有戰
國人受甲者皆曰 使鶴 鶴實有
祿位 余焉能戰 云 注 軒 大夫車
云

○ 季子文子の母 上同

國語 四卷 晉語 上 季文子相 宣

成無衣 帛之妻 在食粟之馬 仲
孫它 諫曰 子為高上 卿相 二君
矣 妻不衣帛 馬不食粟 人其
以子為憂 且不華 國乎 文子曰 吾
亦願之 然吾觀國人 其父兄之食
庶大而衣惡者 猶多矣 吾是以不
敢人之父兄 食庶衣惡 而我
美焉 吾與馬 在乃非相人者 乎 且

○ 欲^{セハ}知^ラる^ト云^ハ因^ラ果^ニ其^レ現在^ト果^上同
 果^上論^セ三^右寸^ハ現在^ト因^ラ推^レ未^レ
 来^ト果^上以^テ現在^ト果^上推^レ過^ク云^ハ因^ラ果^上諸^レ
 經^レ要^ト真^ト古^レ卷^レ偷^レ盜^レ傍^ニ二^レ故^レ經^レ因^レ
 欲^レ知^レ過^ク云^ハ因^ラ當^レ看^レ現在^ト果^上欲^レ知^レ
 未^レ来^ト果^上但^レ觀^レ現在^ト因^ラ云^ハ此^レ現在^ト
 果^上報^レノ善^レ惡^レに據^レテ過^ク云^ハノ因^ラ縁^レ善^レ
 惡^レヲ推^レ量^スス^レキ^レ由^也

○ 亦^ハ一^ノよ^シに^モ云^フ事^{ナリ} 世一
丁右
 亦^ハあ^ハま^ハら^ハし^ム事^{ナリ}ト云^フ事^{ナリ}下^ノの^レと^ハ云^フ事^{ナリ}
 亦^ハの^レ云^フ事^{ナリ}を^レト云^フ詞^ハ之^レ若^ク演^ラる^事也
 此^レに^ハ若^クノ^レ事^{ナリ}切^レハ^レテ^ハ自^レ身^ノ此^レが^レ
 亦^ハ衆^ニ云^フ事^{ナリ}論^ラレ^ル云^フ事^{ナリ}也^レ其^レ亦^ハ
 切^レノ^レ事^{ナリ}演^ラる^事圓^ニ若^ク式^ニ云^フ事^{ナリ}
 ○ 亦^ハ一^ノよ^シに^モ云^フ事^{ナリ} 上同
 下^ニ年^ノ箭^トト^ス事^{ナリ}ト云^フ事^{ナリ}亦^ハ身^ノ也

中^カルト縁^カ詔^カヲ^カ道^カス^カ也^カ古^カ今^カ者^カ下^カ躬^カ
恒^カ歌^カ也^カ

梅^カら^カす^カる^カニ^カ一^カより^カ年^カ月^カの^カし^カる^カ
ニ^カし^カて^カお^カも^カな^カら^カう^カれ^カト^カ凡^カ年^カ月^カノ^カ久^カ
年^カノ^カ矢^カノ^カト^カ引^カ直^カニ^カ書^カる^カ也^カ


○月^カや^カあ^カぬ^カ世^カ

伊勢物語等^カ段^カ目^カ

月^カや^カあ^カぬ^カま^カや^カあ^カら^カう^カの^カま^カを^カ

ふ^カあ^カる^カづ^カめ^カら^カら^カし^カも^カあ^カり^カて^カ古^カ
今^カ無^カき^カも^カも^カ出^カて^カ在^カる^カ業^カ平^カノ^カ歌^カ也^カ

○柳^カい^カと^カび^カや^カう^カら^カう^カら^カり^カや^カ 上同

榻^カ鴨^カ曉^カ景^カ十九^カニ^カ管^カ丞^カ相^カと^カ付^カる^カニ^カ
風^カ月^カの^カあ^カま^カえ^カる^カ大^カ社^カと^カし^カて^カ天^カは^カ
日^カ月^カ口^カ口^カ々^カ地^カを^カ垣^カ梅^カの^カ匠^カう^カり^カて^カ
み^カ木^カ秀^カ於^カ林^カ汎^カを^カ指^カ之^カ行^カ舞^カ人^カ
衆^カ必^カ非^カ之^カ也^カ  智^カ也^カと^カて^カ在^カ院^カの^カ左^カ席^カ

種々談し中を終りしは日
欲明浮雲覆之叢蘭欲其秋
風敗之とはのこさるる明后
と中が終り島若四年二月廿
九日菅丞相を大宰権帥とす
九州へ配流せし終りしが
三年の暮秋を去りて都
を去りしは梅香と思はる

東風吹なほいかに梅の香
あやとりと暮らさるる
どかりうはけ梅庭に飛去て
配所の庭をぞけりて
の香をえ折人ばしと
西所の花梅気なり心
てし別し別をゆみ
玉はぬるの梅の枝の

らんじりをもきうしやあぢもかひん
梅とび梅はのち世中の木をり
こそばちかひりたれとんを新の根
以路を起し西府のいせりて電進
和と中侍るるをこそ、花柄天神縁起
=紅梅殿子髪をもかひり梅をも
ゆらんよし、いせり子中るるちりとも
そはち強りなる

あぢあぢは匂ひあぢよき
梅のやとまひあぢよき
あぢんれよとづえけちよ、らんげ鹿
このあぢよ、梅のいけ梅、あぢよ
あぢりりとちりあぢり、梅城録
或説曰菅公平日癖、于梅甲
芽在長也宜風坊、丑季別殿
純哉梅而分、紅白二種、凍葉才用

清玩終日雅詠吾驛且辭京也
潛地對花曰東風有便寄我
香蹤^{香蹤}在^在香^香海^海勿忘^{勿忘}香^香西^西府
荒涼元无嘉^嘉一^一夕^夕冷^冷香^香暗^暗度
爨^爨脂^脂雪^雪鍋^鍋中^中庭^庭徑^徑而^而視^視之^之乃^乃
別殿紅^紅豔^豔若^若封^封殖^殖者^者世^世目^目同^同飛^飛州
梅云大明初詩人洪恕送^送儒^儒東
歸曰日本^{日本}富^富聞^聞北^北野^野后^后愛^愛梅

清酒又能^{スラ}請^請居^居西^西府^府三^三千^千里^里飛^飛
香^香度^度海^海雲^雲之^之數^數前^前南^南禪^禪投^投光
和尚有天神^{天神}贊^贊曰^曰極^極寶^寶化^化成^成三
昧^昧火^火梅^梅花^花飛^飛度^度九^九州^州雲^雲之^之異^異存
日本^{日本}傳^傳三^三卷^卷所^所引^引新^新芳^芳隆^隆天^天錫^錫雜
錄^錄妙^妙選^選稿^稿在^在集^集天^天滿^滿宮^宮詩^詩之^之五
帝^帝託^託法^法現^現神^神通^通千^千里^里飛^飛梅^梅一^一夜
松^松萬^萬事^事夢^夢醒^醒雲^雲吐^吐腹^腹觀^觀音^音寺

禪一聲鐘響、釋台蘇か仙果稿
中卷九吉田駿河守遠已文之隱天
錫吟等身梅生縁隣斯地三又
下卷段龍光院碑序之天錫有觀
音寺裡一声鐘之吟、洪序有一夜
飛香度海雲之跡、梅隱天錫
詩集三卷アリ、其中六此千屋飛梅
詩見之、妙隱稿尋之

○いみぎのみ^{サキ}なりん^{サニ}

古今哀傷はけり川の^{おん}おん^{おん}いす
ちみ^みなり^{なり}なり^{なり}なり^{なり}なり^{なり}
い^いい^いい^いい^いい^いい^い
海^海の^のゆ^ゆの^の梅^梅の^のい^いい^い
げ^げの^のい^いい^いい^いい^いい^い
い^いい^いい^いい^いい^いい^い
い^いい^いい^いい^いい^いい^い
い^いい^いい^いい^いい^いい^い

元禄年来 見別ニ櫻ノ下ト三詠ル

浮草ノ野ノ櫻ノ心ニアラハキニキ草

木ノ心ト云ト云ト物ノ氣ヲ知ラズハ其ノ

若ハ目ヲ深ク嘆ケルト今ニ浮草ノ

目ヲ深ク櫻トチアリキ梅花ニ是ノ底ノ

老ニ同シ洛社諸彦遊浮草ノ看見是

浮櫻詩ニ洛下傳名目ヲ深ク花ノ風吹テ

一片点火加サ沙衣野ノ自注ニ城南浮草

宮有目ヲ深ク浮櫻云

○子ノ夾ノちレくニん上同

古今集抄序天皇所

時大和国高同奈信茅子成管ノ

別ノ之後夢中ニ見ル初陽毎朝来

不相遠本柳をつまのあらむといふ

耳ヲももあらむといふをみみ

のよを今同答抄序天皇所

日奉紀云、彦政守良負、ワスレテ、
尋テ、佐々ノ濱、一行者アリ、
ウツクシキ、子房ニ行合ヌ、サレド、
後、余ヨリ、翠ルニ、女云、我ヲ、
此濱ヘ、カレセヨ、我モ、未テ、
是ヨリテ、良負、契シ、比テ、
濱、一行者、ニ、タリ、セ、
人待居、ル程、
出、来、テ、居、ル、所、ヲ

ハ、通ル、是ノ、跡ヲ、
佐々ノ濱ノ、
人又ト、ハレ、
シ、
カ、
ニ、
シ、
人、

ハ、通ル、是ノ、跡ヲ、
佐々ノ濱ノ、
人又ト、ハレ、
シ、
カ、
ニ、
シ、
人、

山中

藤原雅彦

○藤原雅彦山名以

○法皇中内侍中内侍

法皇八後花園院之皇年什略記三

後花園院講、長仁後十松院等二

皇子、實後宗光、貞成御子、母敷

政門院入道、贈左大臣中納言、經有

女、采仁親王孫、宗光院、常孫、依上

皇元、建嗣也、應永廿六年己

六月廿日誕生、正長元年七月廿八

日、踐祚、應仁九年、寬正五年

七月十九日、禪位於第一皇子、應

仁九年九月廿日、俄御出家、文明二

年三月廿七日、俄御出、頓崩、宣

所、第八、皇居同、同三年正月三日

孝、葬于、悲田院、始、孝、是後、文德

院後改後花園院^ノ中風ノ症ハ
万安方頓医^ノ故ナリ^ノ精細^ノ考^ノ下^ノ考^ノ
記^ノ又中^ノ應^ノ年^ノ記^ノ中^ノ風^ノ上^ノ云^ノ依^ノ
證^ノル^ノ由^ノ論^ノシ^ノク^ノ

○世のまがれ 丁廿三

皇身代略記^ノ後土御門院ノ考^ノ應
仁元年八月廿三日依大兵乱又^ノ皇
町^ノ亭^ノ春^ノ林^ノ三^ノ此乱ハ斯波^ノ縣^ノ報^ノ

富山確執事^ノカ^ノリ^ノテ^ノ山名^ノ細川^ノ荷^ノ擔^ノ大^ノ乳^ノ交^ノ也^ノ
~~再抄~~富山確執事^ノ再^ノカ^ノリ^ノテ^ノ山名^ノ細川^ノ荷^ノ擔^ノ大^ノ乳^ノ交^ノ也^ノ
仁記^ノ應^ノ仁^ノ略^ノ記^ノ應^ノ仁^ノ別^ノ記^ノ下^ノ考^ノ
之^ノ二

○室町殿 丁廿四

室町殿ハ慈照院義政^ノ太^ノ右^ノ軍^ノ也^ノ
室町殿^ノ年^ノハ^ノ九^ノ考^ノ格^ノ考^ノ記^ノ注^ノ
釋^ノ考^ノ也^ノ

○忍びそいし... 上同

亂世事ナレバ忍ビテ御葬送了ル由御河決ナドアリシ也

○愁^ル涙^ル井^ル 丁廿四

愁^ル涙^ルハウレハノミナキ也 野唐語常達

鼻古意ニ愁涙變楚竹蛾眉喪

○乱^ル世^ルの始^ルナリ 上同

昔々云々 應仁元年八月世ニカシ 云此御亭ニ即同宿アリト云時ヲ指

○境^ル飯^ル 丁廿五

境^ル飯^ル 原氏寄生堀川ハニ云

廿七日考葬永涌寺下丸所年也
庶民院殿將軍取浦也

○伊弉 同上

後花園院御葬送ノ御車ノ御車
心御車ハ院中ノ行幸ハ立上甲久事十
九老格等記注秋之云

○池中蓮花大如車輪 丁丑

阿弥陀經極聖國土有七宝池一切

總水充滿其中云々池中蓮華
大如車輪青色青光黄色黄光
赤色赤光白色白光微妙香潔

○念劇 丁右

以呂波字秋物音部置字門之念
劇ソウダキ云々節用集音部言
辞門之念劇ソウダキ下字集

言部 念劇 ヲウケ年 同音字
門 念劇 ヲウケ年 念與念 同音字
歩色 世身 富部 念劇 ヲウケ年
手 數 聖名 和 卷 中 心部 念
音 取 イツカハ 同音 上 刀部 劇 劇
同 正 音 後 イツカハ 念 下 之 二

四智 十重 禁 上 同

○ 四智 十重 禁 上 同

四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同
四智 十重 禁 上 同

梵網經 十重 禁
相 事 之 三 法 英 殊
林 百 六 卷 戒 相 部
下 之 毛 委 記 之 下
事 長 之 六 部 久

四智 十重 禁 上 同

○ 躡 躡 同 但 徒 多

以 音 波 字 款 抄 左 部 音 字 門 之 躡 躡
ソ ン コ 三 音 爲 用 身 字 部 言 辭 同 之
躡 躡 ウ フ ク 三 音 作 法 故 音 實 之 躡 躡
事 躡 躡 者 聚 足 擊 而 居 息 也 躡 躡
躡 躡 家 不 倉 勅 命 則 不 之 躡 躡
也 然 後 躡 躡 之 北 山 行 在 記 云 假
名 三 音 ソ ン 并 白 上 書 之 音

○ 上品 下品 上品 下品

觀 在 身 之 經 之 上品 上 生 下 品 下 生
迄 九 品 之 身 之 說 十 及 極 聖 世 界 之
寶 池 蓮 華 之 臺 之 身 之 說 之 經
後 指 遺 教 之 并 乳 母
一 之 爲 事 之 在 之 身 之 說 之 經
之 九 品 之 身 之 說 十 及 極 聖 世 界 之
遺 教 之 并 空 止 人

やあの人をいふとさうも
あまどつあはるし

〇さうよてがも上同

拾遺、哀傷之雅致、女式部、

くま、まうくもたを入ぬす

~~さうよてがも~~ ~~さうよてがも~~

〇か、づはまぬ別丁廿七

後花園院御製、古今雅上、兼平記

医、母、歌、

か、い、ぬ、ま、い、ま、ぬ、あ、い、ま、い、ま、い、

い、よ、く、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

平の歌也、

世中よまぬあまのちてがれ子

世をいふ人の子れも、此贈る歌、

招天ヨマセタニ也、此贈る伊勢の物語

こもん、

○石火光中寄此身セキタウクウカウチノミヤ 下七

白氏文集ノ詩ニ電光石火ノ名ハ
巖集傳燈錄ナド所見枚数多カ
ラズ

○そよの心上同

伴桐里中ノ詞ニハ雲御物三ノ下巻夏
名部ニ院ニそよの心ソヨノココロノ名モ
あ
ら
ず
他洞タウトヨクニ拾遺シヨウイ思オモ心シン

草上定家卿

る代ルとトさサいイかカはハよヨわワもモれ
そよの心の君ソヨノココロノミコはハみミもモ月信集
上上後後京極殿

己己稽稽かかららびびみみかかははるるこころろ
のの心心のの所所ははいいははままにに此此かか所所見見多多し
万万母母子子十六十六三三三三ハハ只只他他境境ノノ下下ニニ云云レレ
三三天天仙仙院院兼兼オオククララズズ兼兼子子直直道道性性
の心直道性

シ出ルニ天^ト對^ト仙人ノ栖^ル知^ル久^ク又^モ仙^ノ院^ニ
ノ^リフ^ニ申^セル^也

○登^ト霞^ガ

丁^ノ右^ノ

海人^ノ浮^リ芥^ノ上^ニ也^ト丁^ノ登^ト霞^ガ仙^ノ院^ニ也^ト
御^ノ事^也也^ト仙^ノ院^ハ不^レ可^ク言^フ前^ノ御^也也^ト登^ト
霞^トカ^ト濁^リ毛^ノ讀^也也^ト礼^ト
記^曲礼^下ニ^出登^ト霞^ト曰^ク天^王登^ト假^ト去^ト注^ト
ニ^登上^也也^ト假^ト已^也也^ト上^ニ已^者若^ク僊^去云^耳

果^高信^何四^卷在^左
請^祖王^殿又^是死^云
ナ^ト乃^云

云^正我^ニ登^上也^ト假^ト已^也言^ハ天^子上^升
已^矣若^僊去^也也^ト引^子黃^帝篇^ニ
帝^登假^ト百^姓號^之二^百餘^年不^輟
云^林希^後注^ト登^ト假^ト者^猶言^登假^ト
也^ト假^ト登^ト假^ト云^文登^ト假^ト廿^七劉^鍾名^勸
道^表之^宸極^矣御^登假^ト假^ト假^ト假^ト
ナ^ト所^見多^也昇^霞ト^云文^同假^ト假^ト
子^五老^經風^俗篇^ニ孝^之四^有新^渠之^目
其^人死^則聚^柴而^焚之^烟上^熏天^謂之^昇假^云

○休^{チツ}息^{シヤク} 二 廿六
休息^{チツシヤク} 〇 〇



○藤原雅康 関東海道記

○柏木^ノ 〇 〇

近江国ノ名所ノ 荒孝伊勢紀行ノ
はあノ事トヤルニ付

今よりハ三ツツノ沖トヤド一めん

まのみ^ノ 〇 〇

元月十九日 武蔵 右馬助 殿 白洲

柏木 宮 宇治 御 殿 向 言

○多^タの^ノ 〇 〇

後撰雜二 枇杷 左 右 匠 〇 〇
ち^ノの^ノ 〇 〇

けしはせい後子

こびとをくらひしこのちのをも

ひしげはるをりよあふふふふ

枇杷左あま

あのみそのまのののりかへも

きつてをゆりしちりちりな大和

物語にも此贈者出入なるのこのま

のホリかしはあのみまの計を作し人

此枇杷殺入後子カトガナルヤガテ

そつ守ル神ことし樹津ヲモ思ひ日

セテ詠出せし先^ツ後^ツハ此^ツに神元ヤ

ウ^ツ之^ツ歌^ツモ^ツ日^ツに^ツ説^ツヲ^ツモ^ツ起^ツシ^ツん^ツ也^ツ源^ツ氏

和語柏木先枕草紙 若囀抄本 三ノ巻 狹

衣 三ノ巻 トモモス

○張^ツ唄^ツ四^ツ十^ツ

下学集言後門口張行々々々々々

蘇用集知部言部門之張行々々
ガヤリ云々運出云々蘇用集知部之張
行々々々々々々々右記之張彼南三
侶張行事誰不憚乎云々難事
從來之不堪堪否云々張行々々
ハリオラト云々其事ヲ興行云々

○古遊リガ 四十
丁右

歌道下蹴鞠道シキリト云云飛鳥井シキリ而及
并々家之也蹴鞠シキリト蹴鞠略考シキリ
白氏文集シキリ聽我歌シキリ兩首シキリ伊氏
帝才シキリヲ名ノシテシキリ講シキリ書シキリアリ
○上シキリ鏡川シキリ 四十
丁右
伊勢名所拾遺集上シキリ三上シキリ鏡河度
會郡シキリ内宮シキリ大宮シキリとシキリ同シキリ字シキリ之シキリ谷シキリあり
ありシキリ海シキリ也シキリとシキリわシキリナシキリ流シキリ河シキリ云シキリ流

るの才を流しを所々濯河と云と
しと一少をもて云づるをぐ一河
二名なりと一、五十鈴河よめを
所鎮座の前のありて、所々濯
河に伊弉諾の時倭姫命もみ
のには、もともとも、ざりて依て
云、**大**神宮儀式帳解二巻に伊
鈴の名義諸説ありと信がし、按よ

何の箇字を五十の義数をみよ、
枝撃や、**柳**も五十**柳**と云、伊都伎
とよみ如し、**太古**鈴と云、因を
其鈴教口なりと云、五十鈴と名付つらん
古老の傳説を聞、天逆大逆、
金鈴、天より降りて、地に留りて、
五十鈴と稱し、**伊弉**もみ、
倭姫命、世記を記す、

御前候一 為答心御前候
此上御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候
御前候一 為答心御前候

〇 惣劇 丁四十一

上支 丁廿六 此ハ伊勢守雲小田
原政一 丁廿七 此ハ伊勢守雲小田
相州小田原 大森路前守 在城也
早雲政才トセリ已ニ

〇 懸の切之 丁左

遊庭秋物 懸事 今宜 本儀は 柳梅
松新 冠木 少以 在也 其外 梅 是 子 月 也

けあひ^ハ巖とく^ハら^ハる^ハ向^ハる^ハも^ハ我^ハ也^ハ
又^ハ切^ハき^ハは^ハ樹^ハ本^ハ樹^ハ本^ハも^ハも^ハ回^ハ下^ハ
極^ハを^ハと^ハあ^ハる^ハ時^ハい^ハふ^ハま^ハ一^ハ丈^ハわ^ハん^ハあ^ハる^ハ
つ^ハふ^ハん^ハは^ハ枝^ハい^ハふ^ハの^ハは^ハく^ハは^ハと^ハぬ^ハ
一^ハ又^ハ御^ハあ^ハん^ハを^ハ行^ハ懸^ハ老^ハの^ハす^ハい^ハ
是^ハも^ハ一^ハ丈^ハあ^ハん^ハ也^ハ大^ハ行^ハい^ハ疑^ハと^ハも^ハせ^ハり^ハ
蹴^ハ鞠^ハる^ハ有^ハ歌^ハ也^ハ
と^ハつ^ハつ^ハつ^ハの^ハう^ハり^ハの^ハ枝^ハい^ハみ^ハち^ハえ^ハ

か^ハり^ハの^ハこ^ハも^ハよ^ハも^ハの^ハぞ^ハり^ハ

の^ハか^ハげ^ハい^ハま^ハの^ハ神^ハ
四十三 丁右

俊^ハ頼^ハを^ハ名^ハお^ハ八^ハ段^ハ也^ハ

定^ハま^ハの^ハま^ハの^ハち^ハが^ハり^ハん^ハた^ハえ^ハあ^ハり^ハ
あ^ハく^ハる^ハい^ハひ^ハき^ハか^ハげ^ハい^ハま^ハの^ハ神^ハい^ハか^ハり^ハ
島^ハ本^ハ山^ハと^ハ吉^ハ野^ハい^ハの^ハら^ハの^ハそ^ハう^ハれ^ハ
る^ハい^ハま^ハも^ハと^ハさ^ハふ^ハば^ハあ^ハら^ハる^ハま^ハは^ハら^ハい^ハ
の^ハみ^ハあ^ハら^ハい^ハ俊^ハ行^ハ者^ハと^ハら^ハけ^ハる^ハ修^ハ行^ハ者^ハ

空ろしとやまのこゝろと
とあはれどよるまの（）後行者を
かきこふふの護法のみ神をまはり
かきこふの護法はもろくも
まはり神をまはりまはりその神も
かきこふの護法はもろくも
かきこふの護法はもろくも
かきこふの護法はもろくも
かきこふの護法はもろくも

をゆえしおまのほはゆるしと、抄此事
舊の布、今昔物語上巻、茅三詣、奥儀
抄中と巻、口本、虚実記上巻、茅三詣
抄、茅三詣、文武系、元亨、歌書、
ナ、巻、後、十、南、傳、下、其、外、所、也、才、也、

○ 緒川 丁右

尾張国高知郡（）緒川之上文 丁左
六日、香智田郡緒川水野右馬大

考則
夫也、
下、
ト、
是也、

○本尊 キニソシ
丁左 四十三

倭國三才島會六十九、參河國大濱村、
禪宗、林泉寺、寺領三十三石、西山洋
土、海徳寺、寺領十七石、時宗、稱
名寺、寺領三十一石、ト、此寺、ノ、中、本
尊、佛、九、心、慶、法、埃、臺、於、十五、廿、則
ニ、本、尊、義、事、木、像、圖、繪、号、ノ、佛、

本尊ト云、新如何、刻彫、殊、繪、佛、
安テ、我、カ、所、行、ノ、本、尊、ト、云、故、今、云、欵、
秘藏記云、我、本、来、自、性、清、淨、心、
於、世、間、出、世、間、最、勝、最、尊、是、故、
曰、本、尊、ト、云、今、為、令、易、悟、暫、ノ、初
心、ノ、行、者、佛、ヲ、増、上、ト、云、大、其、内、證
ニ、念、入、是、ヲ、本、尊、ト、云、也、尤、モ、此、木、像
圖、繪、号、ノ、佛、ノ、生、身、ノ、思、ヲ、成、大、

カ、あ、の、の、と、なり、け、り、

○ 靈山院法 丁右

靈山ハ靈鷲山ニ轉頭轉鳥峰、
其首階岨山、姑栗陀羅矩吒山、
廣善山、白塔山、仙人山、辯足山、狼
山、善日、賢山、負重山、ナド梵漢名
多クト、靈鷲山ヲ善道ノ稱トス、中
轉頭ハ東家頭、南島頭、西羊頭、

摩揭陀國都城
也也也

北柳子頭ハ中ニレバシ名ヲ得先ヨシ、其
山形轉頭ニ似ル故トモ、天魔波旬
鵬鷲ニ化シテ空前ニ位ルユトモ、靈
鷲多ク位ルユトモ、
此又右テ説法ニモヘリ、
和解、一ノ卷、
上之一卷、同、
城記、九卷、
摩揭陀國下ノ事、

名新集三卷象山篇法顯傳法
華經序品科法皇壽經科法上
卷大智度論三卷水經註一卷河
水一、卷下、其外所已考テ知ラレ
靈山ト云ルハ日本往生記斯基
善長厚歌之靈山然釈迦乃夏麻信
亦知岐利尼之真如久知世便阿比美
都留加貝毛此升コレカレユ

○鶺鴒の渡 四十五

遠江國邊瀨名郡荒井ヨリ北方
内山麓の津トゾキテ南邊ノ里ニ此ノ
鶺鴒モ鶺鴒津ノ寺興テ出テ舟
倚シテ引馬ノ者ニ著クナシハ近鄰
ナルベケレド今ニ考ルニコレナシ

和名抄六卷江國
叡智郡雄踏郡
鶺鴒通云云
コレヤ

○長祚 四十五

以呂波字類抄氣部長祚字門之長祚

祖ナウソシク、下字集然藝門ノ義
 祖元祖ノ義祖三ノ如先祖ノ義也
 也元祖ノ義鼻始也
 井雅臣參議後三位系之三三上義
 上三教定雅有雅孝雅家雅縁
 雅世雅親上順次カリ、雅親ハ權大納
 言正三位文明上三上出家法名采雅
 之雅康、雅世ノ魚子、雅親ノ魚兄云

一流ノ祖ノ權中納言号三尊軒法名
 采世ト云、

○右ノもえをてぬるもの 四六

續古今ノ義卷ノ鼻核といふことハ
 是れハ參議雅臣

右ノもえをてぬるものハ
 今ノ何れもたすよあ中心

○三ノ也ニ丸 四六

雪月フクニハ現在ニ在ルセシトハ花ノナケレセテ
詞ノ花ヲモカテ大カルテ月ノ雪花ノ三ノ
ケシキヲ也

〇いんてんてんをきりてと 四七

諺ニ軍ヲ見テ矢ヲ知ルト云リ夫レ知
軍ニイヒカケル也素問ニ四氣調神
大論ニ夫病ニ已成後逆之乱ニ已成而
後治之猶過而穿井闢而鑄

兵ヲ不亦晚キニテ説カ難言篇ニ載
石ノ文ノ人ノ勿シ也篇之猶過而穿井
井ノ臨難而鑄兵之難也從不及也
此等似ル心ノ語也
七部部ノ義也
いんてんてんをきりてと 四七
是崎ノ西方ニ矢ヲ作橋ヲ渡リ先所ニ行ク

丁、相、因、合、眼、於、關、白、被、申、云、猿、象、
ナド、コソ、信、爾、イ、ニ、ハ、イ、子、ト、云、フ、ハ、候、ヘ、キ、ナ
ト、ノ、歎、皆、雅、聖、之、語、ヘ、天、僧、後、智、依、聖、ヲ
イ、ハ、心、也、後、三、今、擲、ヲ、イ、押、移、リ、夫、古、ノ
猿、象、モ、申、公、ナ、カ、シ、方、ナ、リ、猿、象
其、家、ヲ、之、武、家、ニ、雅、聖、カ、ク、ヲ、用、玉
一、ル、フ、ト、ナ、リ、又、宣、行、カ、幹、林、劫、蘆、身、
觀、世、小、次、郎、畫、像、記、ニ、至、推、古、女、立、

之時、豊、聰、太、子、監、國、祭、祀、天、地、
神、祇、以、布、安、國、利、民、之、政、因、作、
六、十、六、番、之、面、命、河、勝、弄、佛、貌、真、
遂、於、橋、内、裏、崇、宸、殿、前、左、作、
此、伎、由、是、曰、海、波、穩、万、民、康、樂、
也、太、子、以、其、神、聖、拏、神、字、名、之、曰、
申、樂、統、文、云、申、無、神、也、太、歲、在、
申、以、猿、配、之、故、後、世、稱、之、曰、猿、象、

三村天皇宣万機之暇觀覽太子
所筆中興延年記告群臣曰上
敬諸神下安庶民莫過於中興
即命河勝原孫孝氏女龜伎
又有紀氏某為氏女身之婿
故二人有侯起之日之舞之於大
内殿前云至氏女二十九世之孫
是為金若大和州田浦井之座是

也太子所親作之鬼面秋在此座於
是犬和州有回座外山給崎坂久田
浦井是也養若日神事江州有
三座山階下坂比磨是也養若日若
神事河內有新座丹波有孝座
攝津州有法成寺此三座奉賀茂
位各神事伊勢州有和屋勝田立
同此三座奉大神宮神事云信光

諸予曰甲斐之伎雖起于太子河
勝而其源出於神代天岩戸諸神
之樂而遊觴于伊弉也云、按、
林胡蓋身ノ説ハ神皇及聖德太
子ノ時孝河勝が起セル漢去ノ雅樂
相上天皇御撰ノ敬學并号ニ據テ
傳傳セシメテ信用スヘクモアラズ此伎
ハ敬學倭戲ヨリ遊觴シ世下リテ後ハ

頗ル古代ナキテ今概ノ歌舞ヨ
リ之儔リモハ武家礼用ノ樂トシテ

○葛袴也
葛袴 上同

此ハ蹴鞠道ニハ葛袴ヲ用ル事
アル也、弟元御鞠記右ノ相圖ニ
込クドゾウマニノ上ノ草子物
云々、二上ノ葛袴葛布ノ袴

也、色白しスソノ方、搦ル、^ラ指^{トキ}通ス所ハ
平絹也、葛布ハコハクテ搦ラレ又故也、
今、蹴鞠ノ葛袴ハ、前ニ細長キ草
ヲ二ツ折ルル帯ノハ、折ス、前紐モ後
腰モ、大針ノ針ノ上ガシアリ、一膝指
貫ク、袴ヲズ相引ノ西方ニ、菊トキノ
フサラニ、折ルルモアリ、此、膝在馬ニ
足ニアリ、

〇七〇 一 丁右

古今雜傳、壬生中、卷ノ長歌、^ニあり、
か、^ハあ、^キき、^ス人、^ハあ、^ラま、^ニい、^ハ水、^ハ流、
ス、^此詞ヲ、^取テ、^ル也、^良部、^ニモ、^中ニ、
也、^右ノ、^一ノ、^ヤ今、^シコ、^リキ、^ハ何、^トモ、
左、^ノ身、^ニモ、^ハ此、^外ノ、
之、^身ノ、^左ノ、^記ト、^所見、^ル者、^トハ、
へ、^方ノ、^新ニ、^テ向、^シ方、^也、^往古、^ハ今、^ヨリ、

お向しウチカ方カナレニ文ニ辭ニモハ方ニ後ニ成リ
方ハ行ハモ行方也

○ 彙ナラフ祖ニ雅ニ經ニ卿ニ 早ニ九ニ

彙ナラフ祖ニ先ニ祖ト云ニ同ニ也ニ 上ニ文ニ 下ニ左ニ 三ニ文ニ

雅ニ經ニ卿ニハニ京ニ極ニ振ニ政ニ師ニ實ニ公ニ回ニ男ニ忠ニ

教ニ子ニ賴ニ輔ニ台ニ子ニ賴ニ經ニ台ニ子ニ雅ニ

經ニ參ニ議ニ從ニ三ニ位ニ兼ニ久ニ三ニ三ニ大ニ荒ニ年ニ

五ニ十二ニ北ニ島ニ井ニ符ニ号ニ此ニ卿ニ起ニルニ委ニクニハ

公卿補任公卿家傳 筆筆補補任任 作者作者部部類類系系編編

○ 多多みみ分分一一 同

此此歌歌續續古古今今彙彙纂纂部部三三後後傳傳羽羽院院

名名示示方方有有りり時時 上上云云詞詞書書アリアリ家家

身身之之鎌鎌倉倉下下向向クク 下下モモアアレレハハ道道中中ノ

歌歌ナナルル後後ニニ名名所所歌歌考考ララレレ中中ニニ加加ハ

ララレレルル也也

○ 雅世卿 上同

雅世卿 父六雅縁卿 元名ハ
雅清後雅世ト改ム 永享二十三世權
中納言同十三 七八正二位時 同十二
同十日出家 法名祐雅 季久公卿補
任諸家傳補任公卿家傳 系圖本
ニ云ク

○ ちりぶま子号とらり 上同

雅世卿 皇女紀行の長部の御名を云
ふに宇津山より入付る程 而の存
主興のそおげを傳り 景禮雅
恒卿 命さけし 昔はあつらひの
清きとてあけつるものと御名
子名をあらわしむる者なり 号まは
しとしりし 之 新統古今御統
部 左五富と云ふと云ふ あづま

ふくろりゆりし時
しよ字はの山をこえ
短分みおしむし
よみけるし
言雅世るぶよ
ししひ

の二のうち
倭歌
二層
しと文
左
あな
はえ

天保三年十一月十日 平山田與信謹考

扶桑拾遺身事廿二卷之中
柳營御豊船所御問之條目受
水戸八重公之命一臣釋而奉進覽
者也

平山田與信謹識

